

「浸水危険度マップ（洪水ハザードマップ）作成」

1. 浸水危険度マップ

1. 浸水危険度マップ

1.1 浸水危険度マップの概要

定義：浸水の危険度を発生頻度毎に区別して示した図

目的：水害に対するリスクを把握すること

活用：今後の地域のあり方（土地利用のあり方、住居の建て方、住まい方等）〔高頻度版〕
住民が安全かつ迅速に避難するための情報〔洪水ハザードマップ版〕

1.2 対象とした規模

- (a) 高頻度（確率規模：1/20, 1/30）
(b) 中頻度（確率規模：1/40, 1/50）
(c) 低頻度（確率規模：計画規模相当（大河川）、既往最大（琵琶湖））：
- 高頻度版（確率規模：1/20, 1/30, 1/40, 1/50）
洪水ハザードマップ版

2. 浸水危険度マップに関する本年度の検討及び実施概要

2.1 浸水危険度マップ（高頻度版）

昨年度、草津市において、浸水危険度マップ（高頻度版）の都市計画用、農政用の図面を作成した。

公表に応じて閲覧が想定されることから、10mメッシュでの浸水深を記述した図面（確率規模別：1/20, 1/50, 1/100）を作成した。これにより、一戸単位レベルでの浸水深が判別でき、浸水対策においてより具体的な対応ができるようにした。

2.2 浸水危険度マップ（洪水ハザードマップ版）

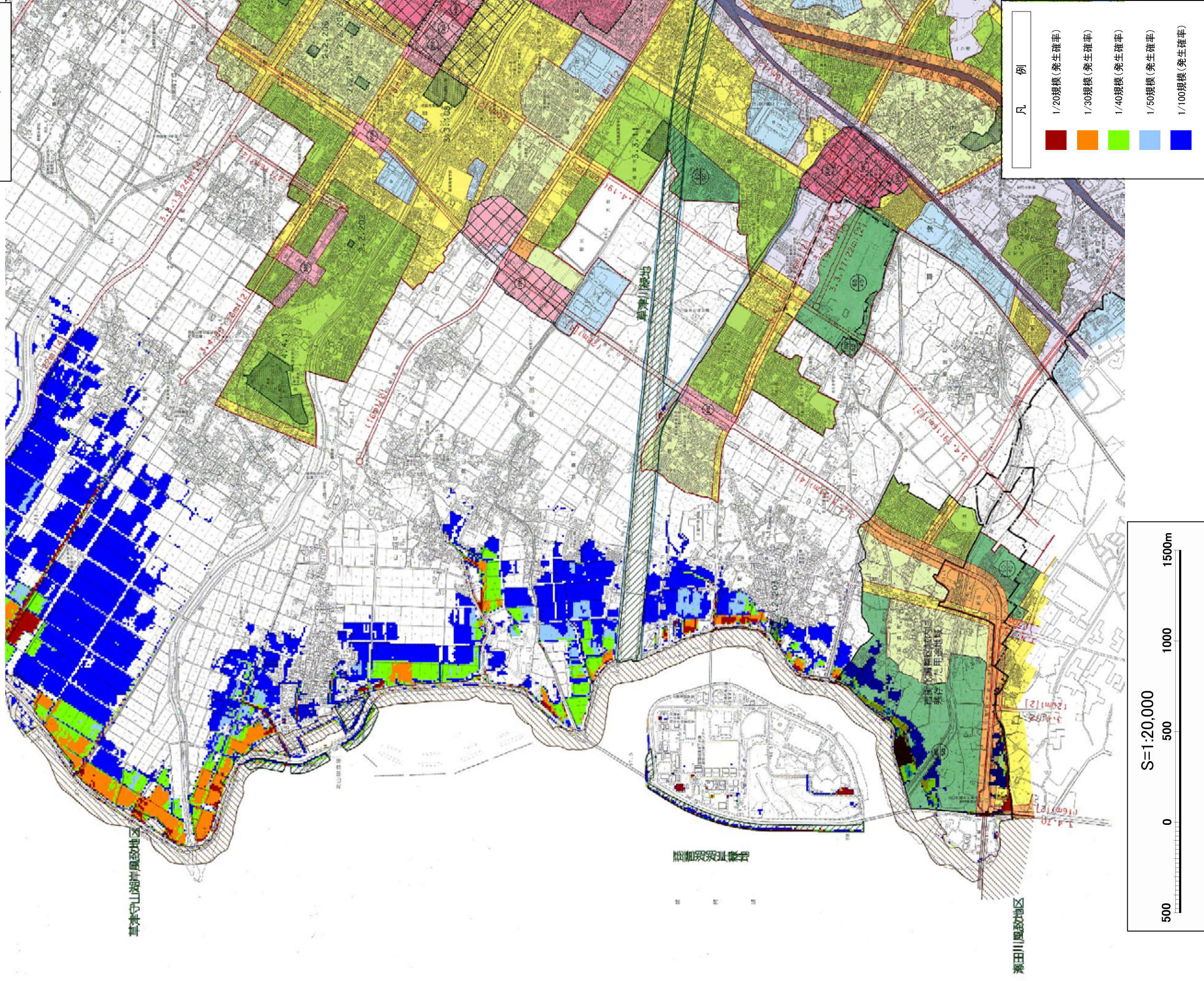
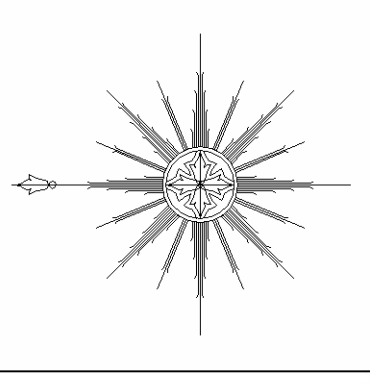
洪水ハザードマップについては、大津市、草津市、野洲市において現在作成中である。本協議会では、草津市におけるハザードマップ作成に当たり、ベースとなる浸水区域図の提供やはん濫のメカニズムの説明など作成に関わる支援を協議会として行った。

浸水危険度マップのイメージ

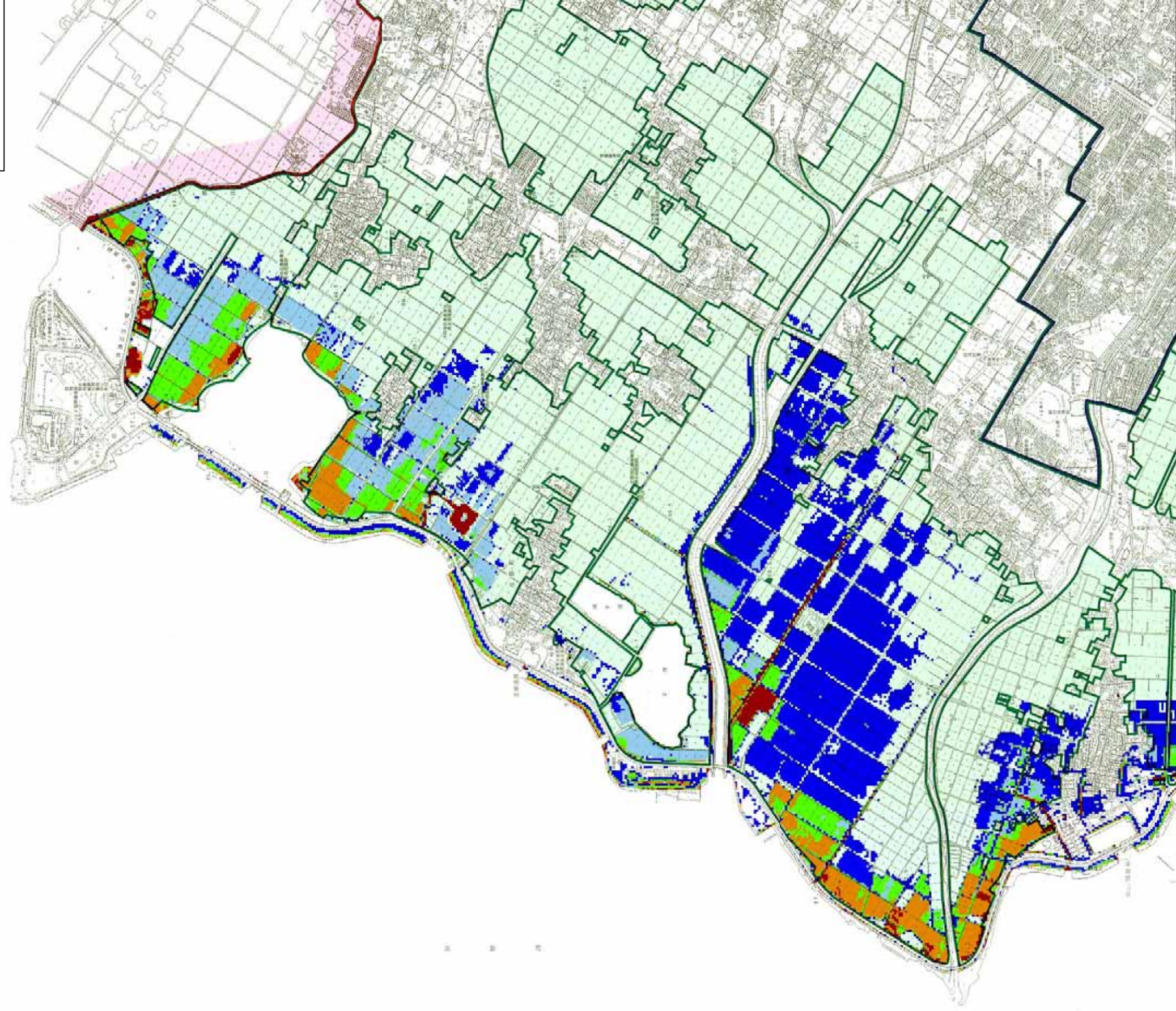
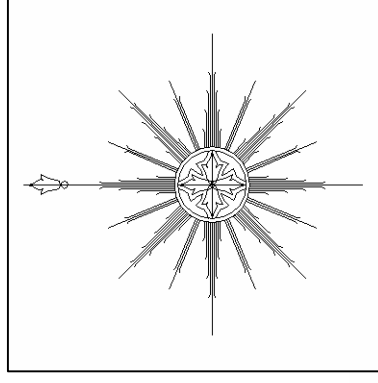
← 高 生起頻度 中 低 →



琵琶湖の洪水による浸水危険度マップ【草津市版・都市計画用】
 分割図B（山田・老上地区）



琵琶湖の洪水による浸水危険度マップ【草津市版・農政用】
 分割図A（常盤・笠縫地区）



土地利用計画 凡例

- 市界
- 市街化区域
- 農業振興区域
- 農用地区域

凡例

- 1/20規模(発生確率)
- 1/30規模(発生確率)
- 1/40規模(発生確率)
- 1/50規模(発生確率)
- 1/100規模(発生確率)

S=1:20,000



10mメッシュ浸水深図面を追加

・浸水危険度マップ（洪水ハザードマップ）作成

1．協議会として浸水危険度マップ作成にあたって支援を行った事項

浸水危険度マップ（洪水ハザードマップ）作成については、草津市をモデル市として、検討を実施した。

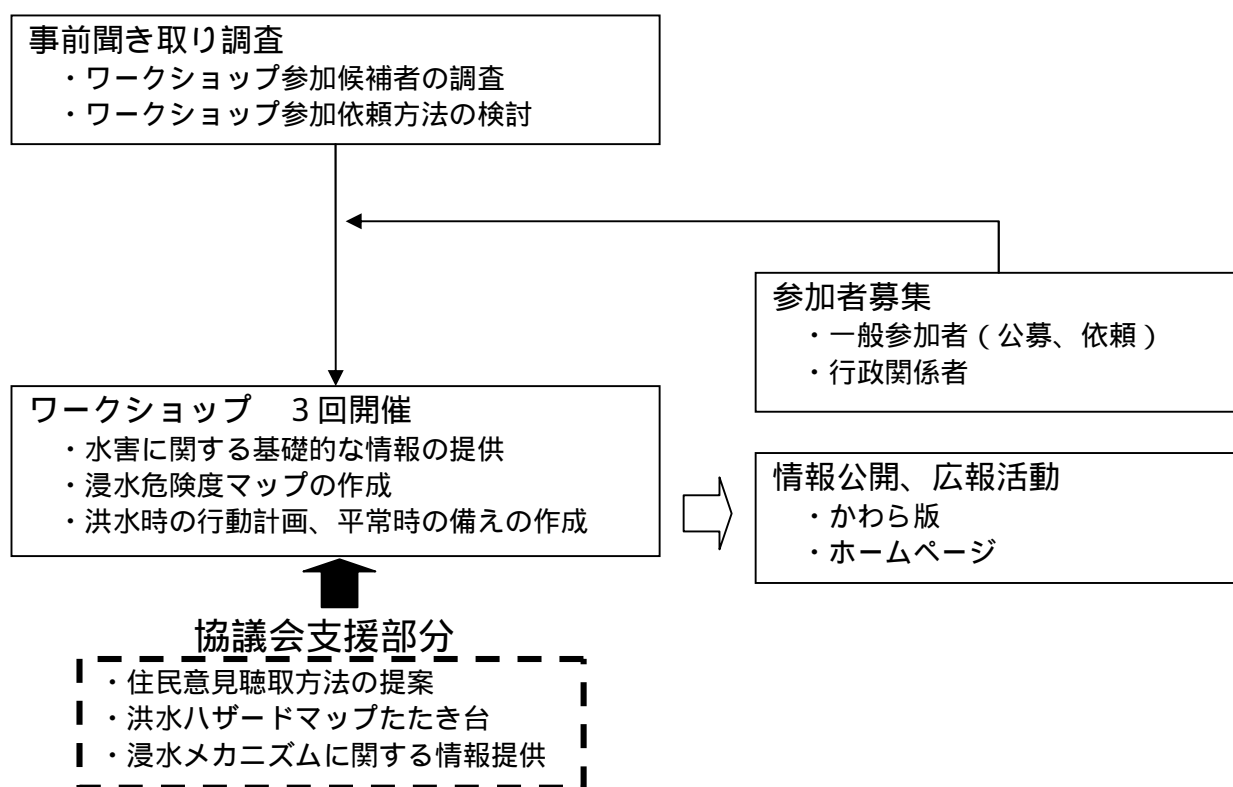
協議会からは、住民意見聴取方法の提案を草津市に対して実施するとともに、洪水ハザードマップ作成のワークショップにおいて、以下に示す情報提供を行った。

洪水ハザードマップたたき台

ワークショップ（グループワーク）に用いる浸水メカニズムに関する情報提供

- a) 浸水想定区域図に関する説明資料
- b) 流域図（草津川、野洲川、葉山川流域）
- c) 浸水メカニズムに関する情報

2．ワークショップの全体構成



3. 草津市における取り組み（草津市より報告）

草津市では、浸水危険度マップ（洪水ハザードマップ）を作成するにあたり、協議会からの住民意見聴取方法の提案を受け、住民参加型のワークショップを実施する手法を採用した。

3.1 “草津市洪水ハザードマップづくりワークショップ”における目標

1) 具体の目標

地域住民の手により洪水ハザードマップをつくりあげる。（行政が独自に作成したものではない）

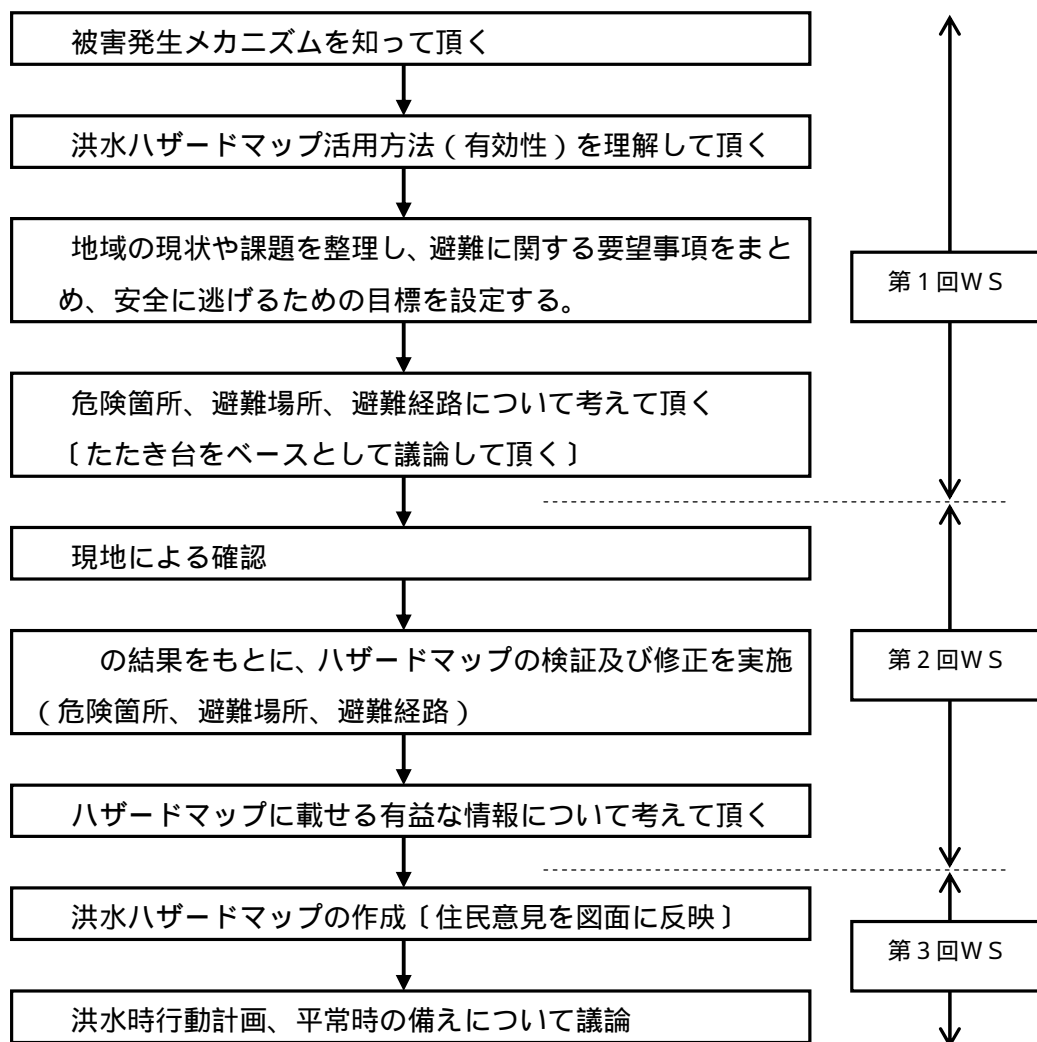
地域住民のみが知る有効な情報を洪水ハザードマップに反映させる。（避難経路・避難時の危険箇所・避難場所等に関する情報、災害時要援護者に関する情報）

防災及び避難意識の高揚を図る。洪水時の行動計画、平常時の備え作成。

洪水ハザードマップの活用方法を理解していただく。（個人・家族単位での避難や水防活動時に実効性のある情報とする）

琵琶湖・河川の洪水災害のメカニズム（地域別にどのような被害形態となるのか）を理解して頂く。

2) 洪水ハザードマップ作成までの流れ



ワークショップにおける洪水ハザードマップ作成フロー図

3.2 ワークショップにおける住民意見聴取項目及び議論内容

避難時の危険箇所の聴取（アンダーパス、浸水箇所、危険な水路、段差、障害物、危険なマンホール、道幅、車道・歩道境界線、落石、倒木、その他）

避難経路

避難場所情報（避難場所の実状；本当に避難場所として活用できるか、その場合の問題点等）

災害時の行動計画（避難にあたっての基本的なルール、役割、注意事項等）

平常時の備え

災害時要援護者に関する情報（災害時要援護者の避難のあるべき姿等）

3.3 ワークショップで得られた成果

1) かわら版

ワークショップは3回実施し、各回での成果について“かわら版”という形でとりまとめ、ワークショップにおける振り返りや、草津市としての取り組みをPRするための公表資料として活用した。

2) 洪水ハザードマップ（案）

洪水ハザードマップは、平成19年3月末に住民に配付予定である。現時点における洪水ハザードマップ（案）について以降に示す。

第1回

草津市洪水ハザードマップづくりワークショップ!

ワークショップが開催されました

草津市は、洪水により浸水のおそれがある区域を示した「草津市域浸水のおそれのある区域図」を公表しました。この地図を用いて本年度中に、万が一の被害時に住民のみならず、迅速かつ安全に避難できるよう「洪水ハザードマップ」をつくることを予定。住民のみならずの意見や情報が反映されたマップづくりを進め、又防災について学び場をつくることを目標に「ワークショップ」を合計3回開催します。第1回目のワークショップは、平成18年9月30日に、草津市役所で行われました。約40名のご参加があり活発な意見交換が行われました。その内容を「かわら版」でお知らせします。

かわら版



平成18年9月30日号

第1回洪水ハザードマップづくりワークショップ

プログラム

- 14:00 はじまりのあいさつ
- 14:05 草津市山崎寛治助役よりあいさつ
- 14:10 「水害リスクに強い地域づくり」
京都大学防災研究所 多々納裕一教授
- 14:30 ワークショップをはじめよう!
ワークショップって何?
- 14:35 グループワーク(前半)
- 15:10 休憩
- 15:15 グループワーク(後半)
- 16:00 全体発表
- 16:20 本日のワークショップ
のまとめ
- 16:25 次回のお知らせ等
- 16:30 終了

「わがまち・わが地域の特徴って何?」

「わがまち・わが地域の避難情報を整理しよう!」



第1回目のワークショップでは
水害と防災を学び
洪水ハザードマップづくりに向けて地域の
防災情報を整理しました

京都大学防災研究所
多々納裕一教授の講義で
水害について学びました



「水害リスクに強い地域づくり」
防災を学ぶ

京都大学防災研究所多々納裕一教授の講義で水害リスクに強い地域をつくるために「自分にできること・地域にできること」を学びました。

『敵を知り、己を知る』

自分の地域はどのような水害実績があるのか知り、それに対してどのような備えができるか、必要な備えは何かを知ることが重要。...先生の講義から、ワークショップがスタートしました。

わがまち・わが地域の

避難情報を整理しよう!

地区・学区をともに参加者は4つのグループに分かれ、話し合いを進めました。

STEP1 氾濫特性について説明を受けた後、河川や湖沼・地形・土地利用・道路や鉄道・歴史など地域の特徴を整理しました
STEP2 避難場所・避難経路・浸水実績のある場所や、避難する上で危険な場所など、防災に関わる地域の情報を整理し、地域の特徴にもとづいた避難について考えました



詳しい内容は裏面をご覧ください

地域の避難場所はどこ?

避難場所に向う避難経路に
危険な箇所はないか確認しよう!

グループ発表

グループワークの後、各グループの代表が参加者全員の前で話し合いの内容を発表し、今回のワークショップの成果を全員で確認しました。



わがまち・地域の
氾濫特性と地域特徴
から避難を考えよう

グループで
話合った内容を
参加者全員に
説明します



次回ワークショップのお知らせ

第2回草津市洪水ハザードマップづくりワークショップ

平成18年10月29日(日)

午前の部 午前10時~12時 現地見学

午後の部 午後1時~4時 具体的な洪水ハザードマップ(案)をつくらう



話合いの内容をまとめました

まず、4つの地域それぞれの**氾濫特性・地域特性**を考えました

グループ

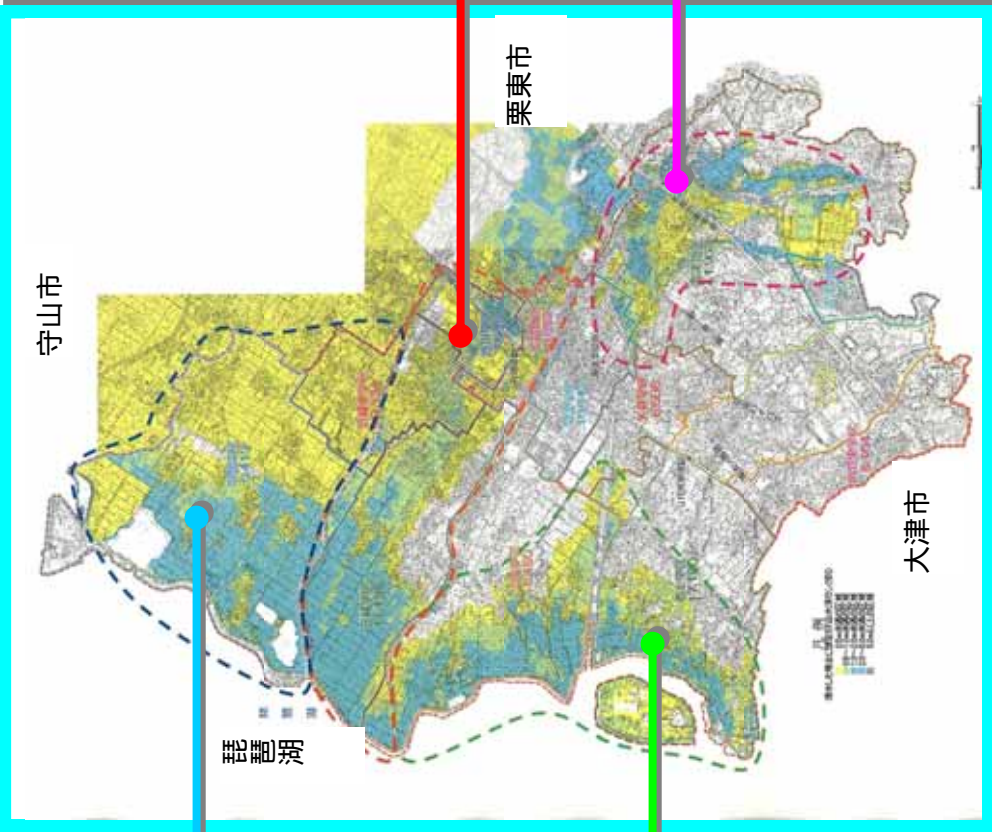
草津市北部及び野洲川ブロック

《氾濫特性》
琵琶湖の内水氾濫は、水位上昇速度が緩やか。
《地域特性》
高齢者が多い。常盤学区の70歳人口約800人。
地形は平坦で、集落内の道は狭いが概ね平坦で歩きやすい。

グループ

草津市西部及び草津川下流ブロック

《氾濫特性》
草津川放水路の整備により、天井川が平地化され氾濫被害は大幅に軽減。
《地域特性》
中小河川が多い。十禅寺川、狼川などでは浸水することが多い。



グループ

金勝川及び草津市街地ブロック

《氾濫特性》
金勝川は天井川なので、堤防が決壊すると河川の全ての水が氾濫する。葉山川と旧草津川に挟まれた範囲を氾濫流が流下する。
《地域特性》
中心市街地がある。
昔は天井川で氾濫した旧草津川は、今は付替えられ安心となった。

グループ

草津川上流ブロック

《氾濫特性》
このブロックの草津川は、天井川なので、堤防が決壊すると河川の全ての水が氾濫する。
《地域特性》
川の合流点が多い。橋を渡らなければ他町に行けない町もある。

つぎに、4つの地域それぞれの**防災情報**を整理・分析しました

グループ

草津市北部及び野洲川ブロック
笠縫東学区・常盤学区



町会館や公民館に集合・避難して
みんなで安全な避難場所に避難！

グループ

金勝川及び草津市街地ブロック
大路地区・渋川学区・笠縫東学区・笠縫学区



洪水時は旧草津川の堤防を
避難経路につかえないか？

十禅寺川、狼川などの中小河川の
浸水に注意！



グループ

草津市西部及び草津川下流ブロック
矢倉学区・老上学区・山田学区

グループ
草津川上流ブロック

川・橋を渡らなければ洪水時避難場所に到着できない。
洪水時に川・橋を渡らないですむ避難場所・避難経路を確保したい。

グループ
草津市西部及び草津川下流ブロック
十禅寺川や狼川などの中小河川では、大雨のたびに浸水するので注意が必要。川掃除していないのが気になる...。
民間の施設を避難場所として利用できないか考えたい。避難用ゴムボートを用意しては？

グループ
金勝川及び草津市街地ブロック
葉山川周辺の避難場所の安全性確認が必要。南北方向の避難経路確保のため伊佐々川周辺の様子を確認したい。
旧草津川堤防を避難経路につかえないか？

グループ
草津市北部及び野洲川ブロック
高齢者が多い地域なので、洪水時はまず各集落の町会館・公民館に一時避難・集合して、みんなで安全な避難場所へ避難するしくみをつくりたい。駒井川の周辺は、よく浸水するので避難経路など確認が必要。

洪水時に川を渡らずに避難場所に
到達できる避難経路を考えたい



グループ

草津川上流ブロック
志津南地区・志津地区・草津学区

第2回 草津市洪水ハザードマップづくりワークショップ!

●現地見学とマップづくり

「草津市洪水ハザードマップづくりワークショップ」は、住民のみなさんの意見が反映されたマップづくりを進め、防災について学び場をつくることを目標として9月にスタートしました。第2回目のワークショップは、平成18年10月29日に開催されました。午前中は現地見学、午後はマップづくりに約40名のご参加があり、活発な意見交換が行われました。その内容を「かわら版」でお知らせします。

かわら版



平成18年10月29日号



川や周辺の様子を防災の視点で観察

洪水を学ぶ

「草津市域における洪水について」

国土交通省琵琶湖河川事務所から、明治29年の洪水や琵琶湖の水害について、また滋賀県河川港課から葉山川などの河川整備について説明がありました。携帯サイトからも水位・雨量などの情報が得られるそうです。アドレスは↓

<http://www.pref.shiga.jp/imd/>

洪水ハザードマップをつくらう!

現地見学で観察したことをもとに、4つのグループに分かれて、ワーキングを行いました。

午前中に撮影した写真やメモを確認しながら、避難場所や避難経路、危険箇所などを地図上で整理しました。京都大学防災研究所の多々納教授からアドバイスをいただき、「災害時に何が重要か?」「避難のタイミングは?」「災害時の連絡方法は?」「洪水の防災訓練も必要だなぁ」など...



現地見学でわかったことを地図上で整理しました

★詳しい内容は裏面をご覧ください

現地見学

現地を観察・現地で発見

午前中は、第1回ワークショップで整理した防災に関する地域情報をもとに現地見学を行いました。川やまちの様子を防災という視点で観察し、避難場所の確認をしました。また、実際に避難経路を歩き、危険箇所などについても、現地で話し合いを行いました。

地域の避難経路を歩きました



草津駅前で見学のふりかえりをしました



洪水について学びの時間



災害時の行動や、平常時の備えについても話し合いをしました。次回ワークショップで、さらに話し合いが深められそうです。

第2回 洪水ハザードマップづくりワークショップ プログラム

午前の部 現地見学

- 10:00 ● はじまりのあいさつ
- 10:15 ● 現地見学
4グループに分かれて現地へ
地域の河川、避難場所、避難経路、危険箇所などの見学
- 12:15 休憩・昼食

午後の部 テーブルワーク

- 13:00 ● ワークショップのふりかえり
- 13:10 ● 洪水を学ぶ
「草津市域における洪水について」

- ・国土交通省近畿地方整備局 琵琶湖河川事務所
- ・滋賀県土木交通部河港課

- 13:30 ● 「洪水ハザードマップをつくらう!」
現地見学で観察したことをもとに
マップ案をつくる
- 14:40 ● 中間発表と講評
- 15:40 ● 第2回ワークショップのまとめ
- 15:50 ● 全体講評

- ・京都大学防災研究所 多々納裕一教授
- 16:00 終了



長時間にわたるワークショップおつかれさまでした!

★次回ワークショップのお知らせ

第3回 草津市洪水ハザードマップづくりワークショップ

平成18年12月9日(土)

- 時間 午後 2時～5時 ● 場所 草津市役所
- 内容 洪水ハザードマップ(案)を完成させよう!
災害時の行動計画を考えよう!

● 問合せ先 草津市産業建設部河川課
● 電話:077-561-2397(ダイヤルイン)
● FAX:077-561-2487



第2回草津市洪水ハザードマップづくりワークショップ



グループごとの意見をご紹介します

グループ④の現地観察と意見

- 草津市北部及び野洲川ブロック
- 常盤学区・笠縫東学区



集落内の避難経路の様子

●現地観察

避難経路沿いの水路は、洪水時に冠水すると見えなくなるので注意が必要だ。信号や電柱、ガードレールが避難経路の目印として使えそうだ。

●避難場所の考え方

地域は高齢者が多いので、洪水時に避難し遅れる人がいないようにしよう！
まず集落ごとに会館に集合して全員で避難場所に向けて避難する。現地見学では会館の構造などをチェックした。

●洪水時の行動・平常時の備え

明治28年の災害時に舟で避難した経験がある。ゴムボートを備えては？



洪水時、集落ごとに会館などの集合場所に集合して情報を把握し、避難に時間がかかる高齢の人と一緒に避難しよう！

グループ③の現地観察と意見

- 金勝川及び草津市街地ブロック
- 大路地区・渋川学区・笠縫東学区・笠縫学区



葉山川の様子

●現地観察

金勝川の堤防から草津市街地が見える。
葉山川は、掘込河道。
伊佐々川は、目川池から金勝川の下を通り葉山川に合流する。周辺はよく浸水しているので洪水時は注意が必要。

●避難場所の考え方

葉山川の隣にある学校は、避難場所として使えそうだ。
駅周辺の高層ビルを、避難場所にできないかな？民間施設と協定を結ぶ必要がある。
旧草津川が開削されると南への避難経路が確保しやすくなる。

●洪水時の行動・平常時の備え

災害時に一番重要なのは情報！



民間施設(高層ビル)との協定など、選択肢のある避難場所・避難経路を考えよう。
洪水時の避難訓練も必要！

グループ②の現地観察と意見

- 草津市西部及び草津川下流ブロック
- 矢倉学区・老上学区・山田学区



避難場所となる公民館(山田公民館)の様子

●現地観察

草津川放水路ができて、天井川が平地化され安全性が高くなった。
狼川や十禅寺川は、よく浸水している。

●避難の考え方

洪水時は、浸水のおそれのない区域に確実に避難しよう！
歩道がない避難経路やよく溢れる用水路は洪水時に注意が必要！

●洪水時の行動・平常時の備え

避難の合言葉をつくらう！

草津川放水路ができて安心になった。
日頃からよくあふれる用水路は避難時に注意が必要！



洪水時に橋を渡らずにすむ避難場所・避難経路を考えよう！

避難のタイミングが重要
情報伝達の方法も考えたいね。

グループ①の現地観察と意見

- 草津川上流ブロック
- 志津地区・志津南地区・草津学区



名神高速道路アンダーパスの様子

●現地観察

草津川は上流に行くほど河床が高く、川幅が狭い。
名神高速道路下に避難時に危険箇所となるアンダーパスがある。

●避難の考え方

川・橋を渡らないで避難できる場所に避難しよう！小高い方向に避難しよう！

●洪水時の行動・平常時の備え

洪水時の情報伝達の方法としてお寺の鐘が有効なのは？

第3回

草津市洪水ハザードマップづくりワークショップ!

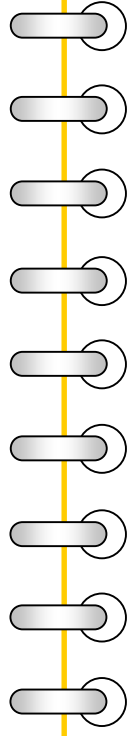
洪水ハザードマップ案の完成に向けて話し合いをしました

「草津市洪水ハザードマップづくりワークショップ」は、住民のみなさんの意見が反映されたマップづくりを進め、防災について学ぶ場をつくることを目標として9月にスタートしました。第3回のワークショップは、平成18年12月9日に草津市役所で開催されました。約40名のご参加があり、マップ案完成に向けて活発な意見交換が行われました。その内容を「かわら版」でお知らせします。

かわら版



平成18年12月9日号



これまでのワークショップの流れ

9月にスタート合計3回のワークショップを開催しました

第1回

H18.9.30(土)

洪水を学ぶ
『水リスクに強い地域づくり』
わがまちの避難情報を整理しよう!
地域の特徴や、避難に関する情報を整理しました。

第2回

H18.10.29(日)

洪水を学ぶ
『草津市域における洪水について』
現地を観察・現地で発見(現地見学)
洪水ハザードマップ(案)をつくらう!
現地見学でわかったことをもとに、洪水ハザードマップ(案)づくりを行いました。

第3回

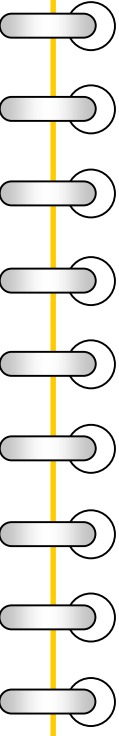
H18.12.9(土)

洪水を学ぶ
『情報入手について』
洪水ハザードマップ(案)を完成させよう!
行動計画を考えよう!
これまでのワークショップをふりかえりながら、マップ(案)の完成に向けて確認をし、行動計画やマップの活用について話し合いをしました。

第3回ワークショッププログラム

- 14:00 はじまりのあいさつ
- 14:05 草津市長 伊庭嘉兵衛 あいさつ
- 14:10 これまでのワークショップのふりかえり
- 14:15 これまでのワークショップ成果を受けて
草津市産業建設部河川課より説明
洪水について学ぶ「情報入手」
国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所
滋賀県土木交通部河港課
- 14:25 グループワーク
『洪水ハザードマップ(案)を完成させよう!』
『行動計画を考えよう!』
- 15:30 休憩
- 15:40 中間発表
- 16:10 中間講評
- 16:20 グループワーク
- 16:40 ワークショップのまとめ
- 16:50 草津市の洪水に対するとりくみ
- 17:00 全体講評
京都大学防災研究所 多々納裕一教授
おわりのあいさつ 草津市産業建設部
- 17:10 終了

問合せ先 草津市産業建設部河川課
電話:077-561-2397(ダイヤルイン)
FAX:077-561-2487



ワークショップをうけて 草津市のうごき

これまでのワークショップの成果をうけて、市は「民間施設との協定」「避難勧告の基準」などについて協議や検討を行っています。又、市長から今年9月に施行された「草津市浸水対策に関する条例」の仕組みについて説明がありました。



防災情報の入手

滋賀県土木交通部河港課
国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所
携帯電話や家庭のパソコンからインターネットを通じて雨量や水位の情報が入手できます。内容や操作方法について説明をうけました。



これまでのワークショップ成果をふりかえり
避難場所や避難経路の
最終確認をしました

洪水ハザードマップ(案)の完成
グループワークでは、これまでのワークショップの成果にもとづいてまとめられたマップ(案)を、グループごとに囲み質疑応答と最終確認の話し合いを行いました。
地図の裏面に掲載する事柄についても、考えました。



避難情報の伝達方法や
マップの活用についても
考えました



洪水ハザードマップ案を 完成させよう!

『災害で落すな命!』
次に、災害時の行動や平常時の備えについて話し合いを進めました。
京都大学防災研究所の多々納先生から、アドバイスを頂きながら「避難するときは孤立しないように隣近所で声をかけ合おう!」「早目に判断・行動をしよう!」など具体的な行動目標を、グループごとに考えました。
又、完成したマップを活用し水害に備えるために、防災訓練の実施が必要だという意見が多く出されました。

詳しくは裏面をご覧ください。



草津市洪水ハザードマップづくりワークショップに

ご参加下さいましてありがとうございます。

今回のワークショップをもちまして「草津市洪水ハザードマップづくりワークショップ」は終了となります。多くのご意見を頂き、ありがとうございました。

今後の予定...

ワークショップでの成果にもとづき洪水ハザードマップの製作・印刷を行い、今年度中に配布する予定です。配布等について詳しいスケジュールが決まりましたら、あらためてみなさんにお知らせをします。これからも、地域の防災についてみなさんのご協力をよろしくお願い致します。

草津市洪水ハザードマップ案の完成に向けて話し合いをしました

グループ

草津川上流ブロック
志津地区・志津南地区・草津学区

洪水時避難場所

洪水時は、川を渡らずに避難場所に避難する。地震時と洪水時では、避難場所が異なることを地域住民に周知しなければならない。

情報の伝達

避難に関わる情報の伝達は、自主防災組織が中心となって避難者の点呼・確認を行う。寺の鐘で地域住民に避難を知らせる方法も今後検討したい。(寺の了承を得る必要がある)

洪水ハザードマップの活用

マップを使う防災訓練が必要！

草津川のゴミを拾う「クリーン作戦」と合同で避難訓練ができないかな？

《目標》

増水時は
川に近づかないで！
複数で避難しよう！

自助・共助・公助
弱者を誘導しよう！



グループ

金勝川及び草津市街地ブロック
大路地区・渋川学区・笠縫東学区・笠縫学区

民間施設との協定

大路地区や渋川学区は、市街地で常に多くの人がいる地域なので、避難場所の収容人数をできるだけ多く確保したい。民間施設との協定を進める。

情報の伝達

避難のタイミングを逃さないことが重要。早い段階で情報入手できるように備えたい。アマチュア無線の協力などが情報伝達に有効では？携帯やパソコンから雨量や水位情報入手できるが、操作に慣れるために練習が必要だ。

洪水ハザードマップの活用

頭で覚えてもダメ・体で避難を覚えるために防災訓練が必要！
できるだけ多くの人に参加できるように、他の行事と合同で防災訓練を行う。

《目標》

避難のタイミング逃すな
早く正しく情報をつかもう！

絶対ひとりではあかん
向こう三軒両隣
一緒に駆け出せ避難所に



グループ

草津市西部及び草津川下流ブロック
矢倉学区・老上学区・山田学区

情報の伝達

子ども・大人・お年寄り・身障者...地域住民全員に避難に関わる情報が伝達できなければなりません。町内会に入っていない住民への連絡が課題だ。サイレンや鐘の音を使って避難情報を伝達できるとよい。昭和28年の水害では、草津川の堤防が振動しているのを察知した自警団が、寺の鐘を鳴らして住民に知らせ全戸避難し、大災害であったが死者が出なかった。

洪水ハザードマップの活用

ゴミ集積場などの人が集まる場所にマップを掲示し、啓発を行う。水害に対する防災訓練はあまり行っていない。地域住民がマップを理解するためには防災訓練が必要。



《目標》

災害で落すな命！
早めの避難を
心がけよう！

避難する時
隣近所で声かけ合おう！

グループ

草津市北部及び野洲川ブロック
常盤学区・笠縫東学区

集合場所

災害時は、町会館などの集合場所にまず集合し、そこで安否確認や状況判断をした上で、次の避難行動(洪水時避難場所への移動)をする。高齢者が多い地域なので、避難し遅れる人がいないように地域住民で協力して避難をする。

情報の伝達

情報が混乱しないように、町会や自主防災組織が情報を正確に把握する。家族で、日頃から災害時の連絡方法を確認しておく。

平常時の備え

土嚢袋・ゴムボート・つえ・ロープ・浮き輪・ライフジャケットなどの備えがあれば、いざという時に役立つ。

《目標》

洪水時は、まず集合場所へ！
みんなの安全確認しよう

子ども・お年寄り・身障者
助け合って
早めの判断・早めの避難！



住民のみなさんの意見に基づき洪水ハザードマップ(案)が完成し、行動計画などについても意見交換することができました。ワークショップで完成した案をもとに、マップの製作・印刷を行い、今年度末に市民のみなさんに配布する予定です。



ワークショップを受けて
草津市からの
報告です

民間施設との協定について

これまでのワークショップで、緊急避難場所として民間施設と協定を結ぶことが、話し合われてきました。これを受けて、市は商業施設やホテルなどの民間施設との協定を進めています。

寺の鐘による避難情報の伝達について

ワークショップでは、寺の鐘を鳴らして、避難情報を地域住民に伝えるのが有効という意見が多く出されました。過去の災害でも、寺の鐘を台図に避難を行ったそうです。寺の鐘を、避難情報伝達の手段として使うためには、寺(檀家・門徒)の了承が必要となります。

防災訓練の実施

洪水ハザードマップが完成した後、洪水時の防災訓練を実施したいという意見が、ワークショップで多く出されました。

今後、市は地域のみなさんや関係機関と協力しながら準備を進めたいと考えています。

今後の予定

ワークショップによる洪水ハザードマップ(案)をもとに、マップの製作・印刷を行います。今年度末に市民のみなさんに配布する予定です。

草津市洪水ハザードマップ

土砂災害ハザードマップ

草津川上流ブロック：

草津川上流の浸水のおそれがあるエリア

地図中の塗り分けと浸水の深さの目安

地図中の塗り分けは、浸水想定範囲に想定される浸水深度を示しており、下部に示した深さと対応しています。

5m以上	2階建以上が水没	5.0m
2m~5m	2階部分が水没	2.0m
1m~2m	1階部分が水没	1.0m
50cm~1m	遊歩が閉鎖となる	0.5m
50cm未満	床下が浸水	0.0m

凡例

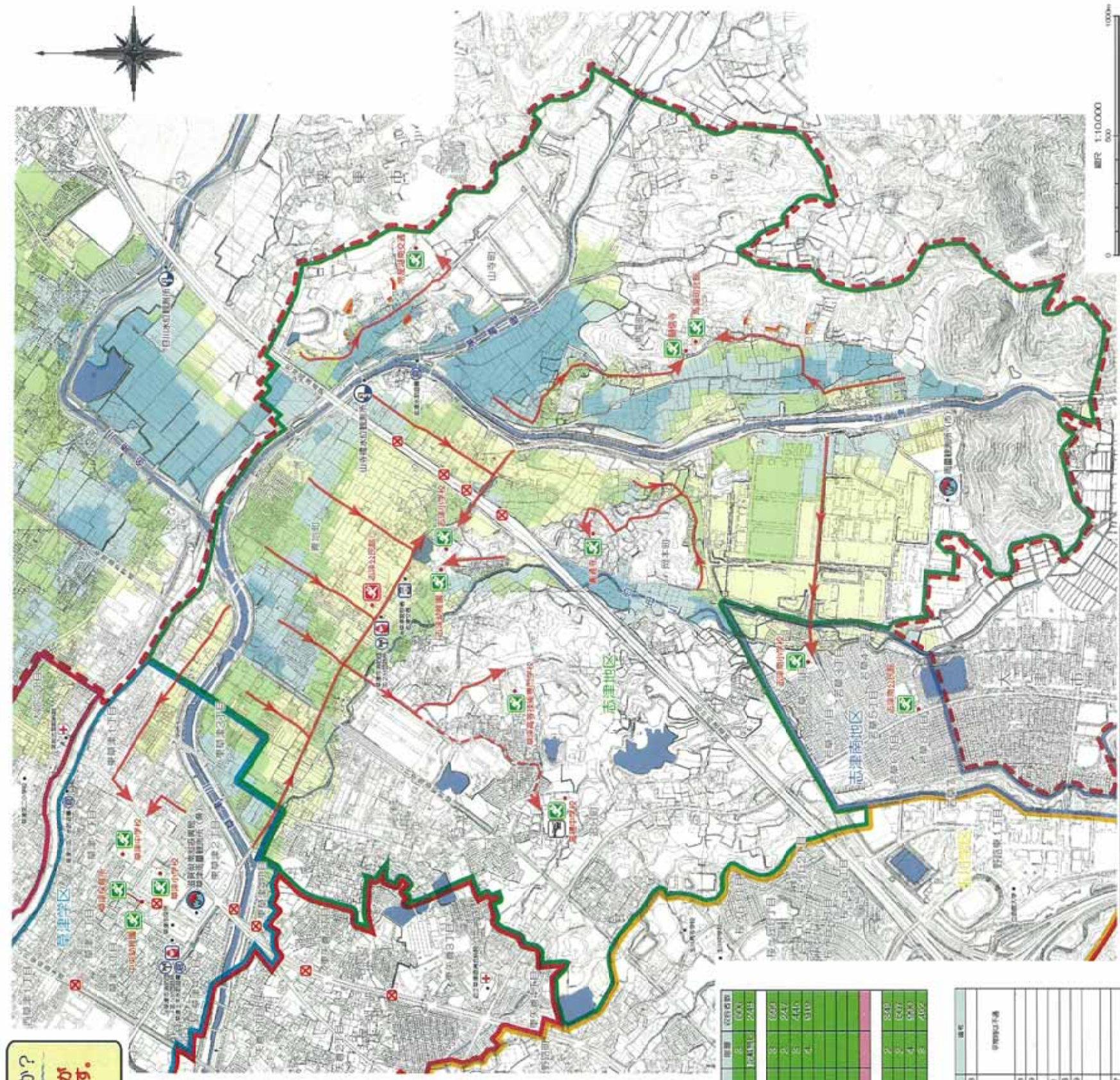
	洪水時避難場所		土石流危険区域及び溪流
	緊急時避難場所		急傾斜崩壊危険箇所(崖部・影響のおそれある範囲)
	ヘルポート		雨量観測所
	警察署・交番		水位観測所
	消防署・出張所		アンダーパス等の危険箇所
	水防倉庫		避難経路
			避難経路(補助)

洪水に対しての心構え！

大雨のときに避難する場所を確認しよう！
 増水した川に近づいたり様子をのぞいたりしないようにしましょう！
 早目の避難を心がけよう！
 鐘やサイレンが鳴ったらすぐに避難しよう！
 お年寄りや子どもにも気を配り、みんなで避難しよう！

大水害は何が原因で起こるのか？
 このブロックでは草津川の堤防が決壊した時に洪水被害が発生します。

草津川上流ブロック



- 浸水の範囲に関する注意点！
- ① 雨の規模や降り方等、シミュレーションの条件と実際の状況に起こる洪水が一致するとは限らないことから、実際の洪水における浸水範囲と異なる可能性があります。
 - ② 想定した規模以上の洪水が発生した場合、同マップで浸水していない箇所においても浸水する可能性があります。
 - ③ 中小河川は氾濫までは考慮していませんことから、同マップで浸水していない箇所においても浸水する可能性があります。
 - ④ シミュレーションに用いている地盤高は50m×50mあるいは250m×250mで平均化したものを用いており、微地形まで反映できていないことから、特に窪地等では想定した浸水深以上となる可能性があります。

● 避難施設一覧表

施設名	住所	電話番号	備注
草津市消防本部	草津市本町1-1-1	077-562-2547	
草津市警察署	草津市本町1-1-1	077-562-2547	
草津市立第一中学校	草津市本町1-1-1	077-562-2547	
草津市立第二中学校	草津市本町1-1-1	077-562-2547	
草津市立第三中学校	草津市本町1-1-1	077-562-2547	
草津市立第四中学校	草津市本町1-1-1	077-562-2547	
草津市立第五中学校	草津市本町1-1-1	077-562-2547	
草津市立第六中学校	草津市本町1-1-1	077-562-2547	
草津市立第七中学校	草津市本町1-1-1	077-562-2547	
草津市立第八中学校	草津市本町1-1-1	077-562-2547	
草津市立第九中学校	草津市本町1-1-1	077-562-2547	
草津市立第十中学校	草津市本町1-1-1	077-562-2547	

● 官公庁施設及びライフライン

施設名	住所	電話番号	備注
草津市役所	草津市本町1-1-1	077-562-2547	
草津市立第一中学校	草津市本町1-1-1	077-562-2547	
草津市立第二中学校	草津市本町1-1-1	077-562-2547	
草津市立第三中学校	草津市本町1-1-1	077-562-2547	
草津市立第四中学校	草津市本町1-1-1	077-562-2547	
草津市立第五中学校	草津市本町1-1-1	077-562-2547	
草津市立第六中学校	草津市本町1-1-1	077-562-2547	
草津市立第七中学校	草津市本町1-1-1	077-562-2547	
草津市立第八中学校	草津市本町1-1-1	077-562-2547	
草津市立第九中学校	草津市本町1-1-1	077-562-2547	
草津市立第十中学校	草津市本町1-1-1	077-562-2547	

● 緊急医療施設

施設名	住所	電話番号	備注
草津市立第一中学校	草津市本町1-1-1	077-562-2547	
草津市立第二中学校	草津市本町1-1-1	077-562-2547	
草津市立第三中学校	草津市本町1-1-1	077-562-2547	
草津市立第四中学校	草津市本町1-1-1	077-562-2547	
草津市立第五中学校	草津市本町1-1-1	077-562-2547	
草津市立第六中学校	草津市本町1-1-1	077-562-2547	
草津市立第七中学校	草津市本町1-1-1	077-562-2547	
草津市立第八中学校	草津市本町1-1-1	077-562-2547	
草津市立第九中学校	草津市本町1-1-1	077-562-2547	
草津市立第十中学校	草津市本町1-1-1	077-562-2547	

● 交通機関

施設名	住所	電話番号	備注
草津市立第一中学校	草津市本町1-1-1	077-562-2547	
草津市立第二中学校	草津市本町1-1-1	077-562-2547	
草津市立第三中学校	草津市本町1-1-1	077-562-2547	
草津市立第四中学校	草津市本町1-1-1	077-562-2547	
草津市立第五中学校	草津市本町1-1-1	077-562-2547	
草津市立第六中学校	草津市本町1-1-1	077-562-2547	
草津市立第七中学校	草津市本町1-1-1	077-562-2547	
草津市立第八中学校	草津市本町1-1-1	077-562-2547	
草津市立第九中学校	草津市本町1-1-1	077-562-2547	
草津市立第十中学校	草津市本町1-1-1	077-562-2547	

○ 浸水の範囲に関する出典

- ・ 野洲川から浸水「野洲川浸水想定区域図」(国土交通省)
- ・ 草津川(国道沿線)「草津川浸水想定区域図」(国土交通省)
- ・ 草津川(国道沿線)「草津川浸水想定区域図」(国土交通省)
- ・ 草津川「水害に強い地域づくり協議会」
- ・ 草津川から浸水「草津川浸水想定区域図」(国土交通省)

○ 浸水の範囲について

このマップで浸水している浸水の範囲は、洪水発生に関する計画の基本となる降雨を対象として、堤防が浸し(あるいは浸水からの浸水)に及んだ場合に想定される浸水シミュレーションの結果、その浸水浸水の深さとして色分けしたものです。シミュレーションの対象は、草津川(国道沿線)、草津川(国道沿線)、草津川及び志津川(国道沿線)の河川を対象とした浸水想定区域図となります。

・ 浸水：草津川(国道沿線)の河川を対象とした浸水想定区域図となります。
 ・ 草津川(国道沿線)、草津川(国道沿線)、草津川(国道沿線)の河川を対象とした浸水想定区域図となります。
 ・ 草津川(国道沿線)の河川を対象とした浸水想定区域図となります。